

(仮称)ボランティア通信

創刊号

発行 平成 15 年 7 月 1 日
茨城県立図書館ボランティア
協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

ボランティア広報紙発刊に寄せて

このたび、広報運営委員会でボランティア広報紙発刊の話がまとまり、第1号が発刊されることは大変喜ばしいことです。これまでボランティア間の横の連絡は不十分でしたが、本紙により各運営委員会の活動内容や状況、催し物の案内、ボランティアの動向などを容易に知ることができ、ボランティアにとって活動の励みになると思います。

平成 14 年度のボランティア活動状況を見るとボランティアに登録はしているにもかかわらず1度



ボランティア協議会会長 中川 師夫も参加されなかった方が 30 パーセント以上に達しています。色々事情があるかと思いますが、情報不足により活動内容をよく理解できずに活動を諦めてしまった方もいるのではないかと危惧しています。

今後、ボランティア広報紙が、ボランティア活動の励みとなるような形で継続的に刊行されることを願っています。そのためには、広報委員会の方ばかりでなく皆さんの協力により紙面の充実を図ることも重要です。

ボランティア協議会

ボランティア協議会は、各運営委員会の委員長、副委員長により構成され、ボランティア相互及びボランティアと図書館との意志疎通を図り、円滑なボランティア活動環境の構築を目的として平成 14 年 8 月に組織された機関です。

平成 14 年度は、会議およびアンケートにより各運営委員会の活動状況、意見および要望を伺って図書館側と協議し、見学・交流会(千葉県流山市立中央図書館)、研修会(図書整

会長 中川 師夫理)など可能なものは実施しました。また、いばらき読書フェスティバルへの協力をしました。

平成 15 年度は、子ども読書フェスティバルおよびいばらき読書フェスティバル 2003 への協力、研修会や見学会の開催を予定しています。また、2 回の協議会を開催しますので皆様からの忌憚のないご意見を歓迎いたします。



代読サービス

新 県立図書館開館と時を同じくして出発した代読サービスボランティアは、今年度で3年目に入ります。初年度はメンバー 25 名で対面朗読のみの発足でしたが、2年目は録音図書班 6 名が、今年度は代読補充員 8 名も加わり、構成メンバーは 29 名となっています。

最初は障害者サービスボランティアの名称でしたが、「障害」は好ましくないとの声もあり、今年度から「代読」と改名しました。

利用の方法は簡単です。図書館に申し込んでください。文学書・専門書・雑誌等何でも結構です。目のご不自由な方に代わって読ませていただきます。しかし、サービスとはいえ責

任のある仕事です。難読難解語、専門用語を間違いなく伝えるのが重要で、誤読は禁物、辞書を傍らに正確さを期して奉仕します。

代読サービスは、いわば利用者と代読者の共学の間と私たちは考えています。代読することで、学ぶ楽しさを味わっています。

現在専門書に二人の方が毎週対応しています。

目のご不自由な方、お年寄りの方のご来館はそれだけで大変ですが、気楽にご利用ください。今年は録音図書も何巻かできると思います。



児童 「子どもの心」になって読んでみよう！

水野 恵美子

3年目の活動になり、それぞれの曜日担当者は、様々な工夫をこらして、子ども達に読み聞かせをしています。初めて参加の子どももいますが、だれもが遭遇することとして、読んでいる最中にも関わらず、必ず話しかけてくる子どもに会います。「ぼく、見たよ」「私のはね～」などといったサインを出してきます。始めに行くこととして、優しく微笑みを返します。それでも話しかけてくる子どもには少しだけ「そうね～」と相づちします。しすぎるとその子どもの空気が作られ、お話が中断してしま

いますから、本のクライマックスの部分をおおきな声、おおきなジェスチャーなどで、本の世界に引き込みます。すると、いつの間にかじっと目をこらしてその世界に入ってきます。自分も「本の世界」に入り込んでいます。読み終わりに話しかけてきた子どもに声をかけてあげると「自分のこと見てくれた」という笑顔で答えます。そんな時、「感動をありがとう」と本に感謝です。



環境美化

荒井 絹代

環境美化は、現在3人で活動しています。人数が少ないため、日時を合わせるのが困難ということで、大きな活動ができないのが残念です。私達は利用されるお客様に不快感を与えないようにするため、館内に置いてあ

るパンフレットの乱れを直したり、ゴミを拾うことを主として行なっています。



資料配架

原田 久恵

静寂な図書館内、本を読む人、勉強をしている人の邪魔をしないように黙々と、配架整理を続ける仕事。孤独で、意外と体力のいる仕事の裏には、「こんな難しい本、どんな人が読むのかしら？」と想像してみたり、「こんな所に、こんな本が！今度借りて読んでみよう！」なんていう発見があったり、順番がバラバラになっていた場所をきれいに並べ替えたときの充実感や、ブックラック一杯の返却本がなくなった時の達成感があります(また次の台車が待っているけれど...). もちろん、図書館職

員や利用者の方に少しでも役に立っているという喜びもあるからこそ続けています。

他方、孤独な作業の上に、個人が好きな時間・曜日に活動しているため、決まった数人しか活動していないのが現状です。今後は、資料配架ボランティア内の交流を深め、苦労や喜びなどを話し合いながら、活動していけたらと考えています。



イベント

市川 紀明

イベント運営委員会の主な活動内容は、図書館が主催または共催する事業の運営、各種イベントの企画などです。具体的なイベントとしては、視聴覚ホールで行うイブニングシアター、ライブラリーシアター、ライブラリーコンサート、落語鑑賞会、会議室を利用した講習会などです。これらの催事が2回/週くらいの頻度であり、参加者受付、会場準備、後片

付けなどをお手伝いします。現在の登録者は、今年の新規登録者17名を含めて33名です。

イベント運営委員会でのボランティア活動の最大の利点は、お手伝いした後、イベントそのものを参加者とともに楽しめることです。イベントを企画したり、準備作業に参加すると、主催者側としての気分が味わえます。そのため、イ



イベントの参加者が楽しんでいるのを見て、さらに楽しくなります。今年も、去年同様積極的にお手伝いしようと考えています。

☒ 図書館のボランティアは活動しやすいのが特徴といえます。参加、不参加が100%本人の自主性に任されているからです。他のボランティア活動では、参加の割り当てなどがなされることもあるやに聞きます。これでは、強制されているわけで、気持ちよく活動できません。

わたしは「自主性の尊重」を基本姿勢として、イベント運営委員会を運営しているつもりです。

この行事への参加不参加は各ボランティアが決めることですので、連絡を取り合うということもありません。したがって、連絡網も不要ですし、委員会の登録者の顔をほとんど知らないのが、現状です。これで何の支障もありません。実に自由なのです。極端に言えば、組織というものが見えないのです。寂しい気もしますが、気楽といえば気楽です。それに、個々の活動が1回完結で、宿題を残さないというのも気に入っています。この気楽さが、ボランティア活動への参加を長くすることにつながっていると思っています。

ギャラリー

寺門 宏

昨年は、登録者が20数名おりましたが実際に活動した人は3名でした。図書館より1年間のスケジュールが張り出され希望者は氏名をサインして活動します。



写真、絵画、絵てがみ、その他の展示会が1週間ごとに行われ展示品の搬入、搬出を休館日(月曜日)に行なっております。

こちら広報です

黒沢 英宣

このたび、「ボランティア広報紙」を発行することになりました。この広報紙は、全員に配布しますので、皆様からのご意見ご希望や他部門のボランティアに伝えたいこと等を積極的にお寄せくだされば幸いです。

活動の中で感動したこと、気付いたこと等を伝え合い、垣根を越えて横のつ



ながりを深めたい。お互いに意欲を高め合う場づくりに、広報紙が役立つことを願い刊行に努めたいと考えています。

そのため編集にあたっては、活動に寄せる思いや体験を大切な柱したいと思います。

私たちの広報ボランティアは、今後もステップバイステップの精神で活動を勧めたいと思います。皆様の御協力をお願いします。

郷土資料整理

吉川 英治

郷土資料整理ボランティアでは、昨年引き続き「松蘿館文庫」を筆写することを中心に活動していきたいと考えています。この文庫は、享保時代からの記録ですが、内容としては、天候や火災の記事などの身近なことから、藩政に関わる資料なども多く含まれており、研究者にとってはもちろんのこと、一般の方々にとっても興味のある内容です。そこで、平成15年度は、スタッフが増えたこともあり、筆写することを中心としながらも、パソコンに入力し、いつでも原文(資料)を見ながら、すぐに現代の文字で読めるようにしていき、多くの方に利用してもらいたいと考えております。

メンバーには、初心者もいるので、まず、自分たちが文書を読みこなせるように努力していきたいと考えています。また、年齢層も幅が広いので、お互いの交流を図りながら楽しく取り組んでいきたいと思っています。



外国語資料整理

中川 師夫

1. 活動目的

県立図書館では、外国語の図書・資料などを原語で読みたい方および外国人に対するサービスとして外国語資料を受け入れています。また、より正確なデータを付与することによってインターネットなどでの検索を可能とし、これらを通じて日本人利用者の増加も図っています。ボランティアは、これらの図書・資料の受け入れに際して必要なデータを作成し、速やかに資料を提供できるように図書・資料の整理に協力しています。

2. 活動内容



外国語の図書・資料整理の補助作業が主な作業です。具体的には書誌データの新

規作成および訂正、書名などの日本語訳・内容などに関するデータの作成、言語コードの付与などを行います。また、外国語資料を購入するための推薦も行っています。

3. 平成 14 年度の活動状況および成果

一般書 562 冊(英語 369、ドイツ語 156、フランス語 10、韓国語 23、その他 4 冊)および児童書 187 冊(英語 183、その他 4 冊)、合計 749 冊のデータ作成を行いました。

4. 平成 15 年度活動計画

寄贈資料、児童資料および購入資料のデータ作成、本年度の重点収集言語である中国語およびその他の外国語資料の推薦を行う予定です。

図書修理

川上 八重

今年度、新しく6名が申し込みました。現在、昨年からの3名に加えて6名が活動しています。今まで閉架に置いた本が、かなり開架にまわされることになりました。古い本が多いので、ブックコートや、修理しなくてはならない本が増えました。この上は新人さん達に早



します。

く上手になって欲しいと願っております。前からの3名共々頑張っていきたいと思っていますので、皆様よろしく願いいた

編集後記

このたび「ボランティア通信(仮称)」創刊号を発行するに際しまして、原稿依頼を快くお受けくださった皆様に厚くお礼申し上げます。試行錯誤を重ねつつの第1号でした。

一人でも多くの方々に読んでいただけること

が私達の願いであります。

そして、感想をお聞かせくだされば幸いです。号を重ねていく過程の中で、よりよい広報紙づくりを目指したいと考えております。

ご協力よろしく願いいたします。

(広報 金澤 鈴枝)